

# ちからい

2020

彼岸号

VOL.158

浄土宗西山深草派宗務所  
総本山 誓願寺



◆ 倉内賢道猊下晋山式お練り行道 ◆

## ◆ 目次 ◆

- 開宗八百五十年に向けて ⑥
- 賢問子行状記 ⑳
- 倉内賢道猊下晋山式
- お釈迦さまの十大弟子 18

- インド **ドタバタ** 夫婦道中記 ⑫
- 総本山誓願寺だより
- 何でも“お寺探偵団” Vol.56

大宝山 円柏院 崇用寺

## 賢問子行状記

27

宝蔵寺住職 小島英裕

第十七話  
「証入坊、正念往生」(前編)

京都の七条に、松屋という人がいました。性格は柔和で、仏の道を求める志は厚く、また父親に孝行を尽くしていました。

松屋の父は七十歳になりますが、神仏に疎く、勝手気ままな性格でした。松屋はそれを悲しみ、どうにか父を仏の道に入れようと、色々勧めましたが性格は一向に直りません。

松屋は妻を迎えようと、親族も世話をしましたが父親は納得しませんでした。松屋は真つ直ぐな性格で、仕事に精を出し、父を養うことに不自由しませんでした。松屋は誓願寺の阿弥陀さまを信じ、

仕事に出るたびに誓願寺に参詣し、数年怠ることなく、ただ阿弥陀さまに願うことは「父の悪い心は盛んです。未来は地獄の罪人と思うと心配でなりません。父の心を正し、私も同じように称名念仏を相續させてください」と、真心を込めて祈り続けました。

ついに妻になりたいという女性が見つかりました。親戚も喜びましたが、父親の反対により、家族になることは叶いません。七条の川向かいに小さな家を借り、ここに女を住ませ松屋は夜毎通いました。

そんな時、仕事のため二、三日外出が出来ず、女の家に行くことがとどこおりました。女は「お父さんの悪い心のために、松屋との縁が切れるかもしれない。または松屋が病気になるかもしれない」

と胸も塞がり心配しても、家族になることは叶いません。

今宵も早、午後十時頃。今日も会うことが出来ず淋しく思い、女は眠りました。松屋は仕事を済ませ夜中になりました。「今日、明日の夜には女の元へ行かないと、心配で待っているだろう」と、父を蒲団に休ませ、川向かいの女の元へ行きました。

夜も更け、人通りもない闇夜にただ一人で川へ入り、心細く歩いて行きました。川向かいから提灯の灯りが見えました。「これは嬉しいことだ。まだ人が歩いてる」向かいへ行く川の中程に、土をおおい被せた橋があり、橋の上で提灯の火と行き会いました。見るとふっと消えて、火も無ければ人もいません。はっと驚き「どうしたのか。狐、狸が私の心を迷わしているのか」と思うとぞっと身の毛がよだち、恐ろしくて手を合わせました。誓願寺の方を拜み、

「南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏」と称えながら、急ぎ女の家を駆けつけ、扉を叩きました。

(つづく)

お釈迦さまの  
ご生涯

外伝

# お釈迦さまの十大弟子

## 18

絵・豆田織奈 文・釈尊法話会

天眼第一の阿那律尊者 その2



お釈迦さまに咎められて以来、阿那律は一切眠りにつくことはありませんでした。お説教の時はもちろん、夜になっても眠りません。数日経つと眼が真っ赤に充血してきました。さらに時間が経つと目がただれてきたのです。その様子を見たお釈迦さまは、名医である耆婆に相談しました。阿那律を診察した耆婆はお釈迦さまに言いました。

「世尊よ。阿那律の目であります。すぐに治ります」

「そうか、それはよかった。すぐに治してやってください」

「いやいや、眠れば治りますよ。ご心配ありません」

「阿那律よ、その目では修行するにも不

自由であろう。まずはゆっくり眠りなさい。体を休めることが大切だ」

お釈迦さまにそう言われた阿那律は、答えました。

「世尊よ。私は目が見えなくなろうが、体が悪くなろうが、命終わるまで決して眠りません。これは私が決めたことです」

お釈迦さまが、阿那律を心配し、眠るように勧めたにも関わらず、一睡もしませんでした。そして、とうとう阿那律の目は見えなくなり、光を失ったのです。お釈迦さまは、阿那律のその姿に、心を痛めました。その様子を感じたのか、阿那律はお釈迦さまに言いました。

「世尊よ。ご心配なさらないうで下さい。

私は目が見えなくなり、光を失いましたが、後悔はありません。心を落ち着けて瞑想しておりますと、心の中で様々な物

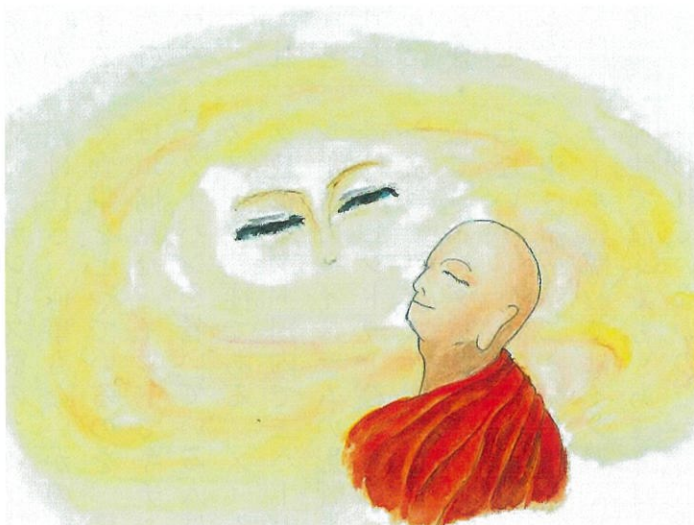
が見えてまいります。物の本質を感じる事ができます」

「そうか、阿那律。お前は肉眼を失った代わりに、天眼通を得たのだな。物事の本質が手に取るように分かるであろう」

「そうですか。これが天眼通でしたか。光は失いましたが、天眼通を得ました。ありがたいことです」

それから、阿那律は「天眼第一」と呼ばれるようになったそうです。

(つづく)



天眼通を得た阿那律尊者

# 総本山誓願寺だより

## 少年少女参拝団 参加者募集

毎年夏休みに小学校五年生、六年生を対象に行っております。今年は八月十九日(水)、二十日(木)の二日間となります。定員は六〇名、定員に達し次第締切とさせていただきます。各寺院へ募集要項をお知らせしますので、詳しくはそちらをご覧ください。



### おもな行事予定

#### 三月

● 十四日(土) 善導忌・六阿弥陀功德日

● 十七日(火)～二十三日(月) 春彼岸

#### 四月

● 五日(日) 花まつり

● 十五日(水) 六阿弥陀功德日

● 二十三日(木)～二十五日(土) 元祖法然上人御忌法要

#### 五月

● 十八日(月) 六阿弥陀功德日

● 十三日(土) 和泉式部忌

● 十九日(金) 六阿弥陀功德日

#### 七月

● 十四日(火) 六阿弥陀功德日

#### 八月

● 十五日(土) 六阿弥陀功德日

● 十六日(日) 精霊送り・盆施餓鬼

● 十九日(水)～二十日(木) 少年少女参拝団

## クイズコーナー

### 【問題】

2頁「開宗八百五十年に向けて6」より、二連の日課念珠を考案された法然上人の弟子は誰でしょう?  
 ○○に当てはまる漢字を3文字でお答えください。

○ ○ ○ ○ ○

官製はがきに、答え、郵便番号、住所、氏名、電話番号、菩提寺(だんな寺)、感想や質問を必ず書いてご応募下さい。その中より紙面に採用させて頂くことがあります。掲載時には、はがきにてご連絡差し上げます。名前の掲載が困る方は、その時にご返事下さい。今回は崇用寺さまより特製布きんとお参りセツトを、セツトにして3名さま、本山謹製線香を5名さまに抽選して差し上げます。ご応募お待ちしております。

### 【宛先】〒444-1350

愛知県岡崎市本宿町東木竹十六番地

欣浄寺内 ちかい編集部

【締切】四月三十日

(消印有効)

答え ○ ○ ○ ○  
 郵便番号  
 住所  
 氏名  
 電話番号  
 菩提寺(だんな寺)  
 感想・質問等

ちかい 第158号

発行日 令和二年三月五日  
 発行所 浄土宗西山深草派  
 総本山誓願寺

京都市中京区新京極桜之町四五三番地  
 電話(〇七五) 一一二一一〇九五八  
 FAX(〇七五) 一一二一一〇一九

E-mail info@fukakusa.or.jp  
 URL https://www.fukakusa.or.jp/